

# 東濃地方最大の前方後円墳

くに し せき なが つか こ ふん

# 国史跡 長塚古墳

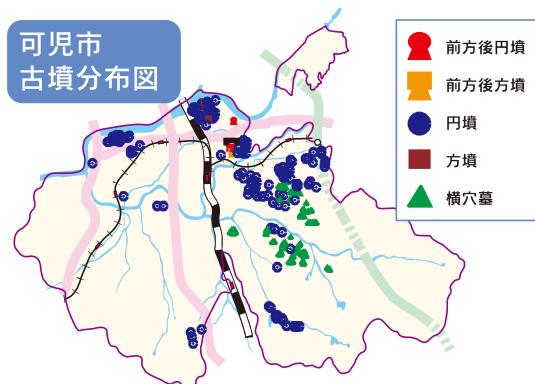
所在地:可児市中恵土

古墳とは、前方後円墳を代表とし、その変遷の過程でそれとの関係において出現した墳墓です。前方後円墳をはじめ、大きな古墳は形と規模でその階層を表しているとも言われます。3世紀中～7世紀代にかけて日本全国(沖縄、北海道を除く)に古墳が造られ、その時代を古墳時代と呼んでいます。

可児市では、古墳時代前期(4世紀後半)に中恵土に長塚古墳をはじめとする大型の古墳が次々と造られます。古墳時代後期になると、川合、土田、羽崎、久々利、大森などにも比較的小規模な古墳が造されました。

可児市で、最も大きな古墳が長塚古墳です。長塚古墳は、形が良く残る前方後円墳で、規模が東濃地方で最大であることから、この地方を統轄した人物の墓と考えられます。

昭和31年に国の史跡になりました。



## 長塚古墳と前波の三ツ塚

長塚古墳は、近くにある野中古墳(前方後円墳)、西寺山古墳(前方後方墳)とともに、古くから「前波の三ツ塚」と呼ばれています。

築造順序は、西寺山古墳→野中古墳→長塚古墳と考えられています。

3基の古墳は短期間に連続して築かれており、少なくとも3代にわたって、可児の地に東濃地方の首長が居た証と理解されます。

## 西寺山古墳(可児市唯一の前方後方墳)

- 墳丘の3分の1程が失われていますが、二段築成の前方後方墳です。
- 元の規模は全長60m、葺石と壺形埴輪を備えています。
- 埋葬施設は不明です。
- 過去に青銅鏡が出土したと伝わっています。



## 野中古墳(可児市最古の前方後円墳)

- 墳丘の3分の2程が失われていますが、二段築成の前方後円墳です。
- 元の規模は墳長62m程度で、葺石を備えています。
- 過去に竪穴式石槨が発見されており、刀剣8本が出土したといわれます。
- 国産とみられる三角縁神獣鏡が出土しています。



三角縁神獣鏡

# 長塚古墳の規模

全長 72m 後円部直径 38.4m 後円部高さ 6.9m  
前方部長さ 35.8m 前方部幅 28.5m 前方部高さ 4.7m

墳丘の周りには濠がめぐり、その外側には堤があったとも考えられています。

航空写真や字絵図から周濠は鍵穴形であり、墳丘の外側へ約20mの幅があったものと想定されます。

墳丘には、外表施設(埴輪や葺石)は設けられていません。

## 古墳の中には二つの埋葬施設がみられました

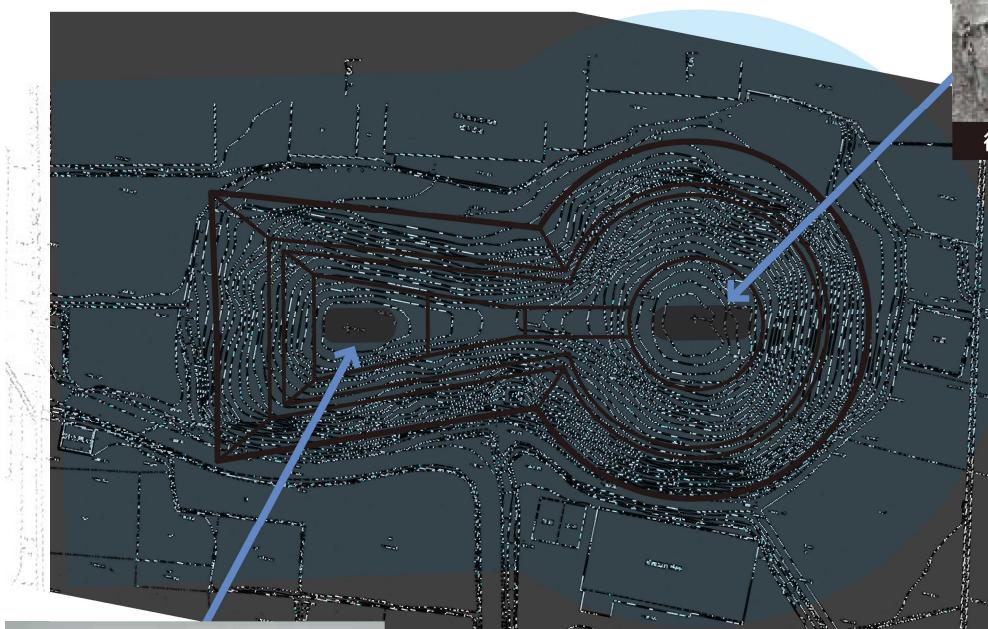
※粘土櫛の中は保存のため、未調査です。

### 後円部の埋葬施設

- 埋葬施設は粘土櫛です。(木棺を粘土で覆っています)
- 粘土櫛の表面には、杵のようなもので突き堅めた無数の敲打痕がみられます。
- 粘土櫛の近くに柱穴があり、構築時に仮設の構造物があったと推測されます。
- 棺を埋める際に、葬儀で使用したと思われる土器を故意に割って埋める儀礼を行っています。
- 出土した土器片の中には、北陸地方特有の土器もみられます。



後円部の埋葬施設(粘土櫛)を見る(西より)



墓壙から出土した土器

■ 調査に基づく復元ライン  
■ 遺体をおさめた場所  
■ 古墳のまわりの濠



前方部埋葬施設の副葬品

### 前方部の埋葬施設

- 墓壙を掘って木棺を入れる、木棺直葬といわれる埋葬方法です。
  - 墓壙の形は、東西約7.4m、南北約4.5mを測る長方形です。
  - 木棺は、長さ約4.9m、幅約0.6m。棺には赤色顔料を撒きます。
  - 副葬品
- ①石鋸…1点 ②管玉…16点 ③琥珀玉…35点  
④ガラス玉…578点 ⑤捩文鏡…1点

2つの埋葬施設は、ほとんど時期差がなく設けられており、4世紀後半に位置づけられます。